

1.団体名 社会福祉法人みどり会 みどりの森保育園

2.令和3年度活動概要

(1)環境に関すること…園庭の畑や花壇・芋畑の整備

- ・夏野菜を育て収穫を行いました。畑の土作りは、年長が中心となり意欲的に取り組んでくれました。野菜を育てるには、良い土壌が必要だということも学びました。
- ・園の近くに地域の方が芋畑を貸してくれています。散歩の途中により、子どもたちが草を抜いたり、土を耕す。芋の苗植えは、乳児クラスは無理のない範囲で参加し幼児クラスと交流しながら苗を植えた。自分たちで土作りをした畑で、どんな芋が育つか楽しみにする姿がありました。

(2)あそびの事例

○園庭での泥んこ遊び (5歳児)

雨が降ると園庭は子どもたちにとってさらに魅力的なものになります。



ジャンプしたり、寝転んだり、全身で感触を感じます。



はじめはおそろおそろ泥の感触を確かめていた I さんも、友だちの姿を見て少しずつ泥の感触を楽しめるようになりました。

泥んこ遊びを思いっきり楽しんだ後は、自分で衣服を洗いました。清潔にする、心地よく過ごすことが、自然と身につけていると感じました。

○自然体験活動アドバイザーの菊間さんと近くの中山公園で、活動を楽しみました。(3～5歳児)

雨が降っても、「カッパを着たら、大丈夫。」と子どもたちから声があがります。カッパも慣れた手つきで着ていきます。



いつもの散歩道も、菊間さんと行くといろんな植物や生き物を発見でき、子どもたちも興味津々です。雨で滑りやすくなっている山の斜面も、日々の経験から体の使い方、力の入れ方も自然とわかっています。



大きな葉をお面にしたり、バッタを手に取り大喜び、不思議な形の実を見つけ「何だろう？」と創造性、感受性、探求心に満ち溢れた活動になりました。

○雨が降っていると「お外行きたい。」と、子どもたちから声が上がります。(2歳児)



土、マットの上、それぞれの場所での感触を確かめたり、タライにたまる雨水やミルク缶の中に雨水が入る音を楽しみました。それぞれの雨をそれぞれの場所で感じました。

(3) 職員研修（資質向上の取組）

○8月26日には外部講師の中川耕治氏をお招きし「SDGs」について、カードゲームで遊びながら学びました。

今まで「SDGs」という言葉を耳にはしてはいましたが、その本質について考えたこともありませんでした。この研修を通して、今地球や世界が直面している課題を目の当たりにし、子どもたちとできることは何かと職員一人一人が考え、保育の中で子どもたちに伝えたり、一緒に取り組む姿が見られるようになりました。

○11月3日には「ぐうたら村」の小西貴士氏にご講演をいただきました。

「環境のための保育」というテーマでお話いただき、乳幼児期に自然を感じながら過ごすことで、将来どのような大人になっているかと問われ、10年後20年後の子どもたちの姿を想像しながら保育をすることを意識させられ、保育を見直すきっかけとなりました。